

大阪市立総合医療センター精神神経科

(平成 26 年 10 月 30 日訪問)

平均在院日数 34.41 日(平成 26 年 10 月 1 日時点)

積極的な取組など

外出時間や範囲、入浴時間、面会の時間や場所についてなど細やかな個別対応があるようだった。

前回の訪問(平成 19 年 5 月)から改善されていたこと等

- 前回訪問時、積極的な合併症治療の提供や平成 16、17、18 年の病床稼働率は 67.9~78.2%である点について検討をお願いしていた。今回は、「病床稼働率は約 80%で、26 床がほぼ常に稼働している。2 床は緊急措置入院のために常に空けるようにしている」との説明があった。緊急措置入院の受入れは土日祝日の 21 時~翌朝 9 時と、月水金と翌日が休みの時の火木の 22 時まで。平成 25 年度の救急の受け入れ実績は院外から入院してきた患者約 20 名、救命救急センターから 24 名ほど、院内の他病棟から 20 名とのこと。
- 前回訪問時、隔離室には鉄格子があり、トイレに囲いがなかったことについては、鉄格子は撤去され、トイレに囲いが設置されていた。
- 薬の自己管理ではない患者は食後はデイルーム、眠前薬は詰所前で受取ることになっていた。

病院全体

年間入院者数は 200 名強。平成 25 年度は 211 名のうち統合失調症が 78 名、気分障害が 76 名、認知症は 5 名。退院先は 6~7 割は自宅で、合併症のため転院した患者はもといた病院に戻ったり、施設に入所する患者もいる。

金銭管理

原則は自己管理で全員分の鍵付ロッカー(無料)がある。1 万円程度であれば病棟預かり、それ以上の金額は 1 階の総合受付の金庫で預かり可。どちらも預かり料金はなし。訪問時は全員自己管理だった。意見箱

病院内の他の病棟と共通の意見箱があり、用紙と鉛筆もあった。用紙には氏名や診察券の番号を書く欄があった。意見箱に投書された紙が入っていた。

診察

診察は病室もしくは診察室。診察室は長机が 4 つ口の字で置けるほどの広さだった。カンファレンスでも使うときがあるとのことだった。

外出

詰所で行き先、帰棟予定時間等を外出表に記入する。患者の単独外出は 9 時~18 時。家族等の同行外出は 9 時~20 時、職員の同行外出は 10 時~

16 時となっていた。職員の同行外出は事前に言う必要はなく、その都度言う。「看護師の都合により同行外出を断ることはあまりない」とのこと。訪問時、院内外を自由に出入される患者は 3 名だった。

面会

13 時~20 時。閉鎖処遇の患者であれば病棟内の面会室やデイルームなどで面会することが多く、開放処遇の患者であれば院内の喫茶店などで面会することもあるとのこと。エレベーターを降りてから病棟に入る手前に家族控室があった。面会時間以外の面会や患者や家族の希望があれば使うとのこと。

電話

携帯電話の持込み可。ただし通話は病棟の電話ボックス内等、場所が決まっていた。メールはすべての場所ででき、カメラの使用は禁止、マナーモードにしておくことになっていた。

詰所からも離れたデイルーム内に電話ボックスがあった。透明のボックスだが目隠しが貼られていた。中に椅子があり、スペースも広い。電話ボックスの扉と電話機横の壁に大阪市や法務局等の電話番号が掲示されていた。扉が引き戸なので、車椅子使用の患者に対し、「使用時は看護師に声をかけると扉の開閉をさせていただきます」という貼り紙があった。

PSW

病院全体で 3 名。普段からこの病棟にいて、病棟内に机がある PSW は 2 名。

入浴・洗濯

テレビカードで支払う洗濯機と乾燥機が 1 台ずつあった。使用時間は 9 時~20 時。

入浴は毎日、9 時~17 時にできる。要介助の患者は週 2 回。浴室は男女共有で、時間帯で交代している。毎朝 7 時に浴室前の机の上に入浴予約表を置き、そこに名前を患者自身で記入。原則 1 人 30 分だが、女性の患者で 30 分以上入っている患者がいるが注意等はせず、個別に対応しているとのこと。

すみれ 8 病棟 精神神経科 閉鎖 男女 28 床

患者も自分のペースで過ごしておられるようだった。家族等 3~4 組が面会に来ていた。患者の服装はパジャマ、ジャージ、私服など様々だった。

詰所前に給茶機と冷蔵庫があった。冷蔵庫に食品等を入れる場合は記名することとの貼紙があった。運動会の告知などが書かれた手作りのポスターが 2~3ヶ所に貼られていた。

デイルームは明るく、清潔な印象だった。詰所や人通りの多い廊下からは離れていて静かだった。テレビが 2 台、ピアノ、囲碁、将棋、トランプ、ファッション雑誌等があった。出張理髪の日時が書かれた掲示や患者図書室の使用時間と場所(10 時~16 時)が書かれた掲示が掲示されていた。図書室にどのよう

な本があるのかが記載された図書リストもあった。デイルームは 20 時で閉鎖される。訪問時は 2 名の女性患者がそれぞれテレビを見ていた。

病室

4 人部屋が 3 室(男性 1 室、女性 2 室)と個室が 16 室。個室 16 のうち、10 室はトイレ付き、6 室にはトイレはなく洗面所のみだった。合併症患者も受入れており、トイレありの個室うち 5 室とトイレなしの個室のうち 1 室は合併症患者用にしている。

精神科病床では個室料無料。病状により個室での療養が必要な患者が入室し、病状が改善し個室での療養が不要になれば総室に移動する。

隔離室

鉄格子は撤去され、アクリル板になっていた。その下に、直径 10 cm 強程度の丸い穴が数個あった。点滴の管などを通すためとのことだった。トイレは囲いがあり、水も自分で流せるようになっていた。モニターカメラがあった。ナースコールは状態によりコードレスやコード式のものを使用するそうだ。モニターカメラはベッドの頭上にあつた。食事は患者の状態に応じて折りたたみ式の小さなテーブルを室内に持ち込んでいるとの説明だった。

隔離室のそばにある診察室は、緊急措置入院の時に使うエレベーターから直結で行けるようになっていた。隔離室は常時埋まっているわけではないそうだ。緊急措置入院なので 72 時間以内に別のところに移ってもらっているとのことだった。

患者の声

「休息のための入院。退院の時期は決まっているので特に不安はない」。

さくら8病棟 児童・思春期精神科 男女 開放 14 床閉鎖 8 床

小学生から高校生が対象の病棟。開放病棟と閉鎖病棟に分かれていた。

トイレが男女共用であること、扉の高さが 150cm くらいであること等については、改善するための病棟内の間取りの変更も含めた具体的な案も出ており、すでに要求をしているとのことだった。

デイルームでは数名で教科書を開いていたり、患者同士で話しをしていたり、本を読んでいる患者もいた。おやつ時間が近づくとさらに患者が増えていた。患者同士や患者と職員のやりとりで少しにぎやかになってきたが、静かに過ごしたような患者は無理にそこに入る必要もなく、それぞれのペースで過ごしやすそうに見えた。

毎週、患者のミーティングがあり、そこで出された意見が書かれていた。「(職員からの)注意がきびしい」と書かれていた。そのような意見が出て、参加者で話し合ったようだった。病棟内にあるピアノの演奏時間、携帯電話やゲームなどを持つ時間なども話し

合ったりしているようだ。

「病院のこどもたちへのメッセージ」という掲示があった。子どもが読んだ場合にもわかるように検討をして作成したとのことだった。10 のメッセージがあり、「1.あなたは、ひとりのにんげんとして大切にされ、あんしんしてちりょうを受けることができます」等、とてもわかりやすかった。

検討していただきたい事項

薬の渡し方

薬の渡し方は前回同様、自己管理ではない患者は、食後はデイルーム、眠前薬は詰所前で受け取ることになっていた。デイルームにある入院オリエンテーションには、「各食後薬、頓服は 1 人で服用せず、必ず看護師の前で服用してください」等と書かれていた。(病院:1 か所での内服確認ですが、検討を重ねて、今後患者一人ひとりの個別性を踏まえた内服方法に変更を考えています。現在は、患者の「希望した時すぐに飲みたい」という期待にこたえる形をとり、現在の方法になっております。食事介助者や、身体合併症患者の術後受け入れ、緊急措置入院患者対応など繁忙を極める中、この「すぐに飲みたい」という希望を叶えるには人員が不足しており、各受け持ちによる個別内服の手渡しは、結果として患者をお待たせすることになるため、現段階での個別対応は困難な状態であります。しかし、今後業務改善を含め検討して方向で考えています。)

意見箱の活用

意見箱への回答は個別に返され、掲示等はなかった。(病院: 現意見箱の回収用紙は、患者支援センターに集約され、各部署で供覧の上、病棟師長が回答を行っています。掲示については提出された全部署の皆様の声から、患者支援センターで必要な内容を抜粋し定期的に意見と回答を掲示しています。)

精神保健福祉資料より(平成 26.6.30 時点)

48 名の入院者のうち気分障害が 14 名(29%)、統合失調症群が 11 名(23%)、心理的発達の障害が 10 名(21%)。入院形態は任意入院 33 名(69%)、医療保護入院 13 名(27%)、措置入院 2 名(4%)。在院期間は全員が 1 年未満。